



こんにちは！ 日本共産党の

# 大名みえ子です

ご相談はお気軽にお寄せください

2008年 5月 9日 89

〒319-1112

東海村村松2401-2

oona\_toukai@yahoo.co.jp

電話・ファックス 029-284-0761

## 何のために全国体力テスト？ 小学5年生と中学2年生の全員

(読みづらいですが、08.4.7付山陽新聞社説をご紹介します)

### 体力テスト 実施の必然性がみえない

文部科学省が、全国の国公私立の小学5年生と中学2年生の全員約240万人を対象に、体力テストを実施すると発表した。学年全員の体力テストは初めてのことだ。

小学6年と中学3年について昨年行った全国学力テストの体力版だが、文科省は子どもの体力を知るため既に毎年抽出調査を行っている。あらためて全国一斉に実施する教育上の必要があるのか、疑問を感じる。テストでは握力、50メートル走、立ち幅跳びなど8種類の実技のほか、朝食を食べているかなど生活習慣も調べる。今月から7月にかけて実施し、結果は12月ごろ公表される予定だ。

文科省は子どもの体力低下を踏まえ、全国の状況をつかんで施策に反映させることが目的の1つという。だが、抽出調査はもともとその目的で行われているのではないかと疑問を感じる。今回と同じ実技項目で小学校は各学年2200人、中学校は同2800人を抽出し、調べている。1人1人の体力向上へきめ細やかな改善策を検討することも目的だそうだが、抽出調査に合わせて全国の約7割の小中学校が自主的に調べている実態がある。必要なら自主実施校を増やす策を練ればよからう。

体力テストの必然性が疑わしい半面、デメリットはいくつも指摘できる。まず心配なのが地域や学校間の競争だ。文科省は個々の校名などはできるだけ伏せる方針だが、全国や都道府県の平均が出るし校名も出ないとは限らない。データを基に現場が成績アップに躍起になる事態が起きないか。

運動が苦手な子や障害がある子たちが肩身の狭い思いをするのではという心配もある。加えて、大規模な実施は先生らの負担も増やす。文科省の急な発表に岡山県内の学校からは既に困惑の声が上がっている。功罪を勘案すれば、今回の体力テストは取りやめた方がよいのではないかと疑問を感じる。運動の楽しさを教えたり指導者の養成に予算を使う方が賢明だろう。文科省は、全国学力テストの際に生活習慣を一緒に調べ、成績と照らし合わせて「朝食を欠かさず、校則を守る子は正答率が高い」など、理想の子ども像を描き出してみせた。今回も生活習慣の調査があり、体力面からこの子ども像を補強する意図がうかがえなくもない。

国が望ましい姿を示すことは子どもを一定の鋳型にはめ込む動きを招きかねない。自由を基盤に、子どもた

怖くなかった  
ですか？

中越沖地震の時も犬がとても吠えたと言いましたが、昨夜、家の犬も揺れがくる前から「ワンワン」ほえて、繰り返し揺れたものですから静かにさせるのに大変でした。突然くるので地震は怖いですね。



## 7日深夜の茨城県沖地震は驚きましたね!!

そろそろ布団に入ろうとしていたころ、はじめの震度3が襲ってきました。驚いてテレビをかけると速報が流れていました。「今夜の地震はちょっとちがうぞ」と思ったのは、続いて小さく何度か揺れたことでした。

布団に入って1時45分、震度4が襲ってきました。昨夜の家族は4人、「みんなで起きてテレビをかけました。その後も小さく揺れました。

役場原対課では 震度4以上の地震になると、役場に出て原子力事業所からの情報収集を行うそうです。昨夜も集まり各事業所から、「異常なし」の報告を受けたそうです。事業所も 震度4以上の場合、事業所に駆けつけ、対応するそうです。